

富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページも見て下さい。 www.tomichokyo.or.jp/yo.or.jp
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布しています。

被災の仲間から話しを聞きました！

聴覚障害者災害救援富山県本部より義援金を贈る

4月3日(水)～5日(金)の3日間、日本聴力障害新聞(以下、日聴紙)の取材のため、2次避難所になっている石川県白山市、奥能登のやなぎだハウスなどへ。日聴紙登録記者である大楠さんと一緒に行きました。

1日目は、白山市にあるあさがおハウスへ。そこには家が全壊あるいは半壊の被害を受けたろう者が集まっていました。地震の状況、避難所の様子を一人ひとりお話を聞くことができました。

2日目は、石川県聴覚障害者災害救援対策本部を訪問。石川県本部が今取り組んでいるのは、罹災証明書の発行の支援、全壊・半壊の家を公費で解体するための説明、仮設住宅入居、仮設住宅を「終(つひ)の棲家(すみか)」につなげるための検討でした。住む家を失った高齢被災者にとって「終の棲家」は重要な課題だと思いました。

3日目は、朝早く大楠君の車に揺られて奥能登へ。志賀町に入った辺りから、道路の状況が悪く、蛇行の繰り返し。3時間かけて能登町のやなぎだハウスへたどり着きました。やなぎだハウスは修繕中でした。利用者は避難した人を除いて5名。近くの柳田公民館で布の草履作りに精を出していました。3か月前の地震が何もなかったかのように振る舞う明るい表情が印象に残りました。手話で語り合える場の大切さを実感しました。また笑顔の奥に今後の不安が隠れていたように思います。

富山県本部で集めた災害救援金の一部を義援金として石川県本部長に寄贈しました。被災者が元気を取り戻し、一日も早く復興できるよう祈ります。

富山県手話普及活動促進事業

今年度も「出前手話講座」をご利用ください

県内の企業、社会福祉法人や社団法人、NPO法人、自治会、PTAなどの団体からの依頼に応じ、ろう者と交流し手話を学んでいただくための「出前手話講座」を実施します。申込みのための主な条件は、

※手話講座にかかる報償費、旅費、需用費、役員費、使用料及び賃借料とします。飲食費用には使えません。

※活動1回当たり15,000円を補助上限額とし、1団体等につき5回までを年度の上限とします。

開催時間は1回につき1時間以上3時間までとします。標準は2時間です。

申込書は本会HPへ、くわしくは富山県聴覚障害者協会までお問い合わせ下さい。



センター利用の実績 3月21日～4月19日

- 来所者合計約 485名
聴障者約235名、健聴者約250名
- コミュニケーション支援 140件
- ライブラリー貸出 0件
- 相談対応 8件
- 部屋貸出 29件

★センター運営募金・募集郵便振替口座；

00790 - 0 - 93002

名称；富山県聴覚障害者センターを支える会
よろしくお願ひします。